

- 1) 評価対象課題
第3期奈良県農業研究開発センター中期運営方針に基づき、令和7年度に実施した、5つの重点目標、17の研究課題を対象とする。
- 2) 評価方法
課題設定、手法の妥当性、達成状況について5段階の評価を行う。評価委員会の各委員の評点を合算の上、平均値を求める。
- 3) 評価結果の活用
農業研究開発センター所長は、評価結果を研究活動等に適切に反映させ、9未満の場合は、委員の提言に従って修正または見直しを行い、研究企画委員会へ報告する。

評価委員名簿

評価委員氏名	
北口 紀子	奈良県消費生活相談員連絡会前会長
平井 久美	奈良県指導農業士会前会長
松山 芳巳	奈良県農業協同組合常務理事
森山 達哉	近畿大学農学部長
中野 泰寿	奈良県食農部長

重点目標	研究課題	評価区分			合計
		課題設定 平均	手法の妥当性 平均	達成状況 平均	
評価委員の意見					
新たな奈良県農業の 取組を支える	長距離輸送性を高めるイチゴの品質保持技術の開発	5.0	3.8	4.0	12.8
	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県産のイチゴを首都圏などの遠方で普及させるためには、長距離輸送時の損傷の抑制・制御は重要な課題である。今回、蛍光検出などの新たな損傷評価法の開発に成功しており、また振動器などの導入によって定量的な評価が可能となった点は大いに評価できる。今後は、包装資材や包装方法の改善などの検討が必要であると考えられる。クッションゲルなどの適用も可能かもしれない。また、損傷に対する意見や受容性などもおさえておく必要があると考えられる。系統の育種に関しても順調に進んでいる点は評価できる。 ・「古都華」はとてもおいしく日本人だけでなく海外の人からも好まれるのは理解できる。包装容器など資材高騰の中での検討は大変なことだろうと思う。イチゴの価格が保たれるよう期待する。 ・長距離輸送における「古都華」と「奈乃華」の実験結果は納得の数値になっている。今後は「古都華」にも対応できる品質保持技術の開発を期待している。 ・イチゴ農家からの話では、資材が高いのが見合う価格を維持するために、品質向上に努めているとのこと。輸送中の取扱いが大きく影響していると心配の声が多い。 				
	一番茶生産に特化した有機栽培体系の確立	4.6	4.0	3.6	12.2
	<ul style="list-style-type: none"> ・海外における日本茶の人気の高まっている。また、海外市場、特にEC諸国からは有機栽培茶葉が求められている背景からも、本課題は重要な取り組みと言える。一番茶摘採後の最適な剪枝時期の目星が見ついたことは評価できる。ただし、害虫や天敵の変化は単年の評価では分からないので、数年間の継続検討が必要と考えられる。 ・日本茶が海外の人にも喜ばれていることは報道でもあたり前になっている。大和茶も多くの人に味わってもらえるよう、有機栽培の体系が確立されることを願う。 ・一番茶生産に特化した有機栽培において、翌年度以降の収量・品質に与える影響は興味深い。引き続き、研究いただきたい。 ・農家からは、粉末にする工場や関連機関が増える事が大いに望まれている。生産しても出荷できない状況もある。 				
枝物の短期育苗技術と品質保持技術の開発	5.0	3.4	3.2	11.6	
<ul style="list-style-type: none"> ・中山間部を中心として、枝物の需要が増加しているなか、本課題は重要である。育苗法や増殖法、品質保持技術が明らかになった点は評価できる。耕作放棄地などへの栽培適性の調査なども今後必要と思われる。 ・輸出が増加している背景もあり、枝物の短期育苗技術と品質保持技術の開発は急務と思われる。 ・「高く売れる枝物」に向けて、品質保持技術の開発は重要な課題である。海外需要が旺盛な品目ごとの研究を引き続き行っていただきたい。期待している。 ・これからの苗木生産に期待している。 					

重点目標	研究課題	評価区分			合計
		課題設定 平均	手法の妥当性 平均	達成状況 平均	
評価委員の意見					
「奈良の食」の魅力 を活かす	奈良県オリジナル酒米新品種の栽培技術の確立	4.4	4.0	4.0	12.4
	<p>・品種登録や大規模現地適応性試験にまで進展したことは大いに評価できる。栽培特性の調査に関しては、複数年度のデータを期待したい。農家だけでなく、農協や醸造元、販売店、外食業などが力を合わせて普及やブランド力アップに関わっていかれることを期待する。なお、食用米との価格差が維持でき、収益性が担保されることも重要であろう。また本課題は十分に目的を達成しつつあるため、終了に向けた整理も検討していただきたい。</p> <p>・「奈々露」のデビューはこれまで携わってこられた方々の努力の賜物だと思う。これからは販売店や外食業などとタイアップしてブランド力を強化して、より多くの人に知ってもらいたい。</p> <p>・「なら酒1504」の栽培技術の確立はほぼ終了に近づいている。作付定着に向けた栽培マニュアルの完成と収量増に向けた検討をお願いしたい。令和9年度以降の「水稻の高温対策技術の確立」の取組みも期待している。</p> <p>・生活においての米価が見通せると酒米・酒造りにも力が入ると思う。酒造メーカーが酒米作りをする事で農家との連携プレーに期待している。</p>				
	県産小麦の生産量増加に向けた栽培管理技術の確立	4.2	3.8	3.6	11.6
	<p>・県産小麦の「はるみずき」の生産量増加は、要望も多い重要な課題である。奈良県産の小麦を用いたパンの製造希望は今後も増加すると予想される。栽培管理技術として、栽培可能な標高も明らかになり、より精度の高い生育予測モデルも作成された点は評価できる。3月上旬の茎立期の追肥効果については再現性の確認が必要。栽培マニュアルの改定も終え、今後は終了に向けた整理を検討してほしい。</p> <p>・県産小麦を用いたパンの製造は、今後も多くの人が望むだろう。マニュアルが確立され生産が増えること、学校給食で子供たちが口にできることが楽しみである。</p> <p>・「県産小麦の生産量増加」は様々な問題があり、すぐには結果につながらない課題ではあるが、栽培管理技術面でのサポートを引き続きお願いしたい。栽培マニュアルの完成に向けて頑張っていたいただきたい。</p> <p>・奈良でしか味わえない小麦というのが、うれしいキャッチフレーズになると良いと思う。</p>				
	ヤマトトウキにおける抽苔抑制技術の開発	4.2	3.4	3.2	10.8
	<p>・着実に進んでいるように思われる。抽苔しにくい系統の育種から現地試作、現地での有効性の検証へと、栽培現場での実証へとシフトしていく必要性を感じた。なお、在来系統よりも抽苔率が低いことに関して、統計的な解析が望まれる。また、地域差の課題もあると考えられる。</p> <p>・ヤマトトウキは奈良県を代表する薬用植物であり、この課題は必要なものだと考える。抽台しにくい系統の育成が確立され、最終目標に近づくことができたら良いと思う。</p> <p>・奈良県を代表する生薬であるヤマトトウキを守っていくためには、抽苔しにくい良質なヤマトトウキを収穫できる技術が必要である。成果も出てきており、引き続き頑張っていたいただきたい。</p> <p>・ヤマトトウキは農家的には儲けにつながりにくい。薬草としてのアピール、奈良との関わりが広く知られることを望む。</p>				
	ヨモギ栽培技術の開発	4.4	3.6	4.0	12.0
<p>・宇陀や東吉野などの中山間地において、ヨモギの安定栽培技術の要望は高い。これらの地域での新しい特産品として成長させるためには安定した栽培技術の確立が必須である。本研究では雑草防除の方法として穴あきマルチの効果が判明したことや、水稲用バインダーの利用による収穫時の省力化にも成功し、評価できる。今後は、これらの種々の工夫を組み合わせ、効率的で省力的な栽培技術の開発が達成され、また、ヨモギハムシの防除などの検討を進めて頂きたい。さらに、奈良県産のヨモギの品質評価や品質の良さのアピールなど、利用や加工などに向けた高付加価値化の検討も期待したい。</p> <p>・国内産のヨモギを期待する声は多いと思われる。栽培技術が開発されれば、生産農家も増えることが見込まれるので、計画どおりに遂行されることを期待する。</p> <p>・国内産のヨモギの需要が高く、まだ生産農家が少ないため収益も見込める。安定した収量と単価が課題だが、就農したいと思える作物にしていければと思う。これからの研究に期待している。</p> <p>・ヨモギの需要性と生産量の増加に期待している。</p>					
吉野葛の科学的評価と栽培技術の確立	4.4	4.0	4.0	12.4	
<p>・吉野葛は県内のブランド産品の一つであるので、その安定栽培化は重要な課題である。今回、デンプン含量の多い育苗方法が確立されたことは評価できる。さらに、デンプンの粒径が評価に使用できる可能性を示したことも良い結果である。糊化特性が栽培でも変化が無かったことも良かった。今後は食味や官能評価、加工特性等の検討も期待したい。</p> <p>・奈良県を代表する食材であり、ブランド品であると考え。天然の葛根は危機的状況であるため、早期の栽培技術の確立が望まれる。最終目標が達成されるよう期待している。</p> <p>・吉野葛栽培技術の中で「取り木」「立体仕立て栽培」での栽培が優位な結果になったことは興味深い。より、高品質で多収となる栽培技術を確立していただきたい。期待している。</p> <p>・本葛は個人的にも好きでよくお料理にも使うので今後の栽培に期待している。</p>					

重点目標	研究課題	評価区分			合計
		課題設定 平均	手法の妥当性 平均	達成状況 平均	
評価委員の意見					
新技術に取り組む特定農業振興ゾーンを支援する	大和高原地域の有機農業を支援するための技術開発と品目の選定	4.8	3.8	4.0	12.6
	<ul style="list-style-type: none"> ・大和高原地区は、無農薬栽培で有名になっているので、そのサポートと進展は重要な課題である。さまざまな工夫や技術を駆使して一定の成果は得られていると思われる。新規に有機栽培可能な露地品目についても、サトイモやジネンジョで慣行と同程度の収量が得られたことは評価できる。ダイコンは難しいようだが、今後はさらにニンジンやカボチャなど新たに選定が進むことを期待したい。 ・「有機農業」は皆が関心を持つところだと思う。技術が開発されると県内の市町村でも広めてもらえるのではないかと。今後の動向を注視したい。 ・これからの農業の核となりうる有機農業の新技术開発に大変ご尽力いただいている。地域や野菜品目などにより実証実験結果に差が出ており、短期間での成果は困難であると思うが、引き続き研究開発に期待している。 ・高齢化が進んでいる農業界だが儲かる有機栽培につながることに期待している。 				
	温暖化に対抗する施設野菜の生産安定	4.4	4.2	3.8	12.4
	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化や大雨など、極端な気候変動に対応する施設野菜の生産方法の確立は重要事項であるが、他府県でも汎用的に検討されている事項と、奈良県独自の課題や適正化などをうまくミックスさせて研究を進める必要がある。大和丸なすに関しては、科学的視点での検討も行って、強光時に弱遮光することで光沢の改善が得られたことは評価できる。年次変動の確認を期待したい。 ・近年の異常気象により、計画どおりに野菜が育たないことで困っている農家の方も多と思う。それぞれの野菜にあった栽培技術が確立され、安定供給されることを望む。 ・温暖化に対抗する施設野菜の安定生産に向けての技術開発は、昨今の気象状況を踏まえると早急に望まれる課題である。その中で、「トマトのプランターによる密植養液隔離栽培」では、連作による影響が出ないという実証結果は大変興味深い。引き続き研究いただくことを期待している。 ・気候変動が極端な日が増え、農家としても工夫が必要になってきた。斬新な考え方が必要なので大学等教育機関と連携した研究がより多くできると新しい発見があるのではないかと考えた。 				
	イチゴを中心とした需要動向の調査と生産コスト低減の検討	4.0	3.4	3.2	10.6
	<ul style="list-style-type: none"> ・イチゴは奈良県の重要農作物であり、新規就農者も多く、人気の品目であるため、その生産コスト低減や適正な価格設定などは重要な課題である。今回、古都華の価格受容性に関して適正な価格設定の余地があることが示され、興味深い。今後は、大阪や東京などの大都市圏や、一般消費者だけでなく、外食業者や加工業者などへの調査も期待したい。生産コスト低減に向けた調査も重要な内容であるが、今後は、この研究の出口戦略（どのように普及・啓蒙させるか）も要検討。 ・イチゴの新規就農者が多くなっていることはよく耳にする。生産者と消費者の理想価格が合致することはないとと思うが、どちらも納得のいく価格帯を目指してほしい。 ・まほろばキッチン櫃原店での古都華の価格受容性調査で、生産者設定価格と消費者理想価格との価格差が見受けられた。高すぎたり安すぎることがないような適正価格で販売できるようすべきである。興味深い内容なので、引き続き調査・提案いただきたい。 ・他県のリース活用のお話を聞いて、奈良県にも協力体制があればうれしい。イチゴは、最近増えすぎていないか。農業的に奈良での農作物を俯瞰で見られる人が必要だと実感している。 				
ナスうどんこ病に対する有効薬剤の探索と防除の省力化	4.4	3.8	4.0	12.2	
<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県でのナスは重要な作物であり、ナスうどんこ病菌対策は重要な課題である。これまでに県内の菌種の同定に成功した点は評価できる。また今年度は、有効な薬剤を複数見いだせたことや、くん煙の効果も確認できた点は評価できる。今後は田原本菌株での効果の検証を経て情報提供や普及を期待したい。 ・ナスうどんこ病に効果の高い薬剤がわかれば農家の方の苦労も軽減されることだろう。計画のとおりに進むことを期待している。 ・ナスうどんこ病をいかに対策するかというのは、ナス生産者にとって重要な課題である。薬剤によっては耐性菌も出てきているので、引き続き、地域をまたがっての調査と省力的な防除技術の開発を期待している。頑張ってください。 ・マニュアル化が進み、後継者とのつながりができることを期待している。 					
野菜類のアザミウマ類等に対する農薬代替技術の開発	4.8	4.0	4.0	12.8	
<ul style="list-style-type: none"> ・天敵製剤や物理的防除法などの農薬を使用しない防除法の確立は重要な課題である。昨年度と同様に、天敵による高い防除効果が確認でき、再現性が確認できた点は評価できる。赤色ネット資材の有効性は継続的に解析が必要である。今後はこれらの得られた成果をマニュアル化し、普及へと進めて頂きたい。 ・農薬代替技術として用いられている天敵製剤にはとても評価し期待している。赤色ネットが普及する日を期待している。 ・アザミウマ類の害虫に対し農薬に代わる対処技術として、天敵製剤や防虫ネットの利用など様々な代替技術の実証実験を行っている。防除効果が安定するよう、更なる研究・開発を期待する。 ・マニュアル化が進み、後継者とのつながりができることを期待している。 					

重点目標	研究課題	評価区分			合計
		課題設定 平均	手法の妥当性 平均	達成状況 平均	
評価委員の意見					
大規模産地の継続的な発展を支える	新たなカキ品種の育成	5.0	4.0	4.0	13.0
	<p>・カキはイチゴとともに重要な県産農作物であるので、非常に重要な課題である。これまでの取り組みが実を結び、果実が大きい有望系統が得られた。複数年度のデータ収集に基づいて、令和8年度の品種登録出願に向けて引き続き検討を進めて頂きたい。また、現場ニーズのある甘柿の育成・選抜も楽しみである。</p> <p>・新たなカキ有望系統はリングサイズと大きく糖度が高くとても興味がある。一方で若い世代のカキ離れも不安の種である。今後は若い世代へのプロモーションも必要かもしれない。</p> <p>・新しいカキ有望系統は大玉であり糖度も高いとのことなので大変興味深い。今後は、さらなる栽培技術の確立と、甘柿の奈良県独自品種開発にも期待している。</p> <p>・富有柿が優秀すぎる品種なので甘柿は次世代に喜ばれる品種ができる事に期待している。「御所柿」というルーツを奈良として残したい気持ちはとてもわかるので期待して待っている。研究員の人手不足がないか心配。</p>				
大規模産地の継続的な発展を支える	キク白さび病の感染環を断ち切る技術体系の確立	5.0	3.4	3.8	12.2
	<p>・小ギクなどのキクは本県の重要な栽培品目であり、その収益性の低下をもたらす白さび病の防除は重要な課題である。高温処理技術やUV-Bの利用などの新しい技術の有効性が明らかになり、評価できる。抵抗性系統の育成も着実に進んでいると評価できる。マニュアル化や普及に向けて引き続き検討をお願いする。</p> <p>・キクは奈良県を代表する植物であり、白さび病対策は必須になる。UVランプや高温処理技術などの調査を進めていただき最終目標に到達することを期待する。</p> <p>・白さび病の感染の連鎖を断ち切る技術体系の確立は、キク生産者にとって重要な課題である。課題設定にある穂や苗の高温処理やUV-Bランプ、抵抗性のある系統の育成など対策として非常に興味深い。効果のある結果も出てきているので、引き続きの研究を期待している。</p> <p>・UVランプの効力が目覚ましい。補助などあれば理屈的には効果が高いので、利用が増えるのではないと思う。</p>				
将来の環境変化に対応する	温暖化に適応した果樹新規品目の栽培適性調査	4.6	3.6	3.6	11.8
	<p>・温暖化に適応した新規な果樹の栽培適正試験を行う課題であり、長期的な視点での意義・重要性が認められる課題である。アボカドや中晩柑にフォーカスして施肥量の効果など、一定の成果が出ている。引き続き、マニュアル化を目指してスピードアップを期待したい。</p> <p>・奈良県産のアボカドはとても興味がある。是非、引き続き研究を進めていただきたい。需要は高いと思うので、栽培方法が確立されると生産者が増えると思う。</p> <p>・ハウス栽培環境下での温暖化に適応した果樹新規品目の栽培適性調査はとても興味深い。環境に適応できる果樹は限定されるが、市場での需要や収益性、栽培し易さも考慮して、幅広い品種の実証実験を繰り返しながら進めていただきたい。</p> <p>・農家的には栽培品目を変えるというのにはとても勇気のいる決断が必要です。部会が作れるくらい何かの作物に特化して生産できる様に今後も調査を続けてほしい。</p>				
将来の環境変化に対応する	食品残渣等の未利用資源の特性把握	4.6	4.2	3.6	12.4
	<p>・食品残渣の有効利用はSDGsの観点からも重要な課題である。県内で発生し、農業資源として有効に使用可能な残渣資源が想定よりも少なかった点は残念ではあるが、米ぬかの化学肥料代替資材としての検討は興味深く、フィチン酸からのリンの可給化に期待したい。また、柿の剪定枝のバイオ炭への応用も奈良県ならではの着眼点といえる。Jクレジットなどの試算を経て、収益性の確認も期待したい。</p> <p>・環境問題の観点からもこの取り組みは評価する。多少達成が遅れたとしても長い目で取り組んでいただきたいと思う。</p> <p>・食品残渣等未利用資源問題はSDGsを実行していく上で重要な課題である。特に、米生産で発生する「もみ殻」と「米ぬか」の有効活用は大変興味深い。「米ぬか」が化学肥料の代替資材となれば素晴らしいと思う。引き続き研究いただくことを期待している。</p> <p>・未利用資源の活用マニュアルに期待している。バイオ炭の作成は興味があるが、昨今山火事が懸念される為、安全な方法も考えつつ、すすめたいと思う。</p>				